

『水俣を伝える』 平野恵嗣

- ①1999年9月30日： 茨城県・東海村の核燃料加工会社（JCO）での臨界事故  
当時の村長、村上達也氏を2004年9月に取材（事故から5周年）
- ②2006年： 水俣病公式確認から半世紀  
村上氏を再取材 → 東海村と水俣の関わり
- ③水俣、福島第1原発事故後の村上氏  
「脱原発をめざす首長会議」参加  
「水俣は自分の後半の人生の原点」
- ④2017年6月： 『水俣を伝えたジャーナリストたち』出版  
桑原史成（写真家） → 半世紀以上にわたる「傍観者」  
松岡洋之助（NHK） → 被害者支援に徹したディレクター  
久野啓介（熊本日誌） → 「水俣と出会い、戦前の思想を清算」  
高峰武（熊本日誌） → 「ジャーナリズムの精神は記者個人の中に」  
ユージン・スミス（写真家） → 「中立なんてあり得ない」  
宮澤信雄（NHK） → 「被害者側に立つ」  
石川武志（写真家） → 30年以上経て水俣を再訪  
村上雅通（熊本放送） → 「水俣を避けてきた人生の空白を埋める」  
井上佳子（熊本放送） → ハンセン病、水俣、戦争  
増子義久（朝日新聞） → 「どの現場にも通底するものがある」
- ⑤自分自身のこと  
松尾芭蕉に憧れての夏休みの旅  
母校が嫌いだった地方都市の高校生  
アメリカ留学 → 「多様性が集団の健全さを生み出す」  
アメリカ社会 → 「垣塙（るつぼ）」から「サラダ・ボール」へ  
通信社記者に → 中曽根首相の単一民族国家発言を機にアイヌ民族を取材  
少数者の声を伝える → 死刑廃止運動、在日外国人、水俣 etc